様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　元 年　 ６ 月 １７ 日現在

機関番号：３２６８３
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2015～2018
課題番号：１５Ｋ０３４７２

研究課題名（和文）経済発展に伴う食の変容と健康への影響

研究課題名（英文）Changing Diet along Economic Development and its Effects on Health

研究代表者
大村　真樹子（OMURA, Makiko）

明治学院大学・経済学部・教授

研究者番号：８０３９７８３５

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　3,500,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は、経済発展に伴う食の欧米化・工業化、そして食の近代化が健康に与える影響を、異なる食文化を対象に検証した。異なる経済発展レベル・食文化の１２カ国の複数地域を対象に、日常食されている食材や食料品を調査した。国の経済レベルに関わらず、食の近代化やグローバリゼーションの傾向が見受けられたが、それぞれの固有の文化に根ざした食の多様性が特に途上国では見られた。同時に食に関する情報や価格が人々の選択に大きく影響することも確認された。食の健康への影響に関しての複数国間の検証は現在進行中である。

研究成果の学術的意義や社会的意義
“We are what we eat（我々は食により作られる）”と言われ、健康的な食生活が推奨される中、我々の食生活が経済発展に伴って実際にどのように変遷してきたのか、特に様々な食材が国境を行きかう現在において、消費者がどのように食を選択し、またそうした食の選択が健康をどのように影響を与えてきているのかを客観的データにより知ることは、我々の厚生（健康寿命）及び社会政策（医療費抑制等）にとり意義がある。分析から、食に関する情報や価格が我々の食の選択に大きく影響することも示唆されたが、今後の食料品に関する情報提供のあり方を模索する上でも有用であろう。

研究成果の概要（英文）：This research analysed the increasingly westernised and industrialised diet along with economic development and its effects on health among different food cultures. Everyday food and diet are surveyed in 12 countries that vary in terms of the level of economic development and food culture. While the modernisation and globalisation of food were seen everywhere despite their different economic levels, diversity of food rooted in their unique culture was also observed. The analysis showed that food information and price significantly affect consumers’ choice. A cross-sectional study on the impact of food on health is underway.

研究分野：経済政策

キーワード：食と健康　経済発展　食のグローバル化　情報と消費行動

１．研究開始当初の背景

近年、食は経済発展と共に急激な変化を遂げてきている。戦後の日本をはじめ、現在の途上国では食の欧米化が進み、加工食品の利用による食の簡便化・分業化も急速に進んでいる。これは経済発展による機会費用の増加や、それに伴う女性の労働市場への参入も大きな要因と推測される。同時に、食のグローバル化・工業化により、我々はより安価に品質が均一の食べ物を、季節に関係なく手に入れることが出来るようになり、食卓に上る食物は、世界のあらゆるところから来るようになった。

こうした食や食生活の変化が我々の健康にもたらす影響は、医学・栄養生理学や生活科学、生物人類学等の分野で多く研究されてきている。経済学では、貿易・食産業・農業・遺伝子組み換え技術と知的所有権、栄養改善による途上国の人的資本蓄積や、近年では肥満との関係を分析した研究も見受けられる。また健康改善ではなく、健康問題に焦点を当てた研究は近年多く、特に急速にグローバリゼーションの波に取り込まれている途上国において、食の変化とその影響は先進国よりも顕著に現れてきていると考えられる。多数の研究が急速な栄養的転換、伝統的な食餌から脂質・糖質割合の高い食餌へのシフトが肥満を引き起こしていると結論づけている。

ファストフードやスナック菓子等の高カロリー・低栄養食品群が、米国をはじめ多くの先進国で肥満や様々な成人病問題及び、そこから派生する深刻な医療費・経済負担を社会にもたらしていると言われる中、人々が何故敢えて健康に悪いとされる食物を摂取するのか。他方、健康に良いと言われるような食生活を実践し、高価な有機食品を購入する人々もいるのは何故か。食物の選択は、所得制約及び情報制約による不確実性下で、将来的の健康便益や疾病リスク・費用と、現在の食餌の便益及び食物の費用とを天秤にかけた上でなされる、ある程度合理的な選択の結果とも考えられる。同時に、異なる国・地域の食餌、加工食品の急速な普及にかかわらず、個々人の異なる食選択は、文化、教育及び情報の役割を示唆する。Smith（2004）は、人々の厚生は健康と密接に関係し、人々の健康は食餌の影響を、そして食餌は文化の影響を受けるため、教育やメディアの影響を受ける食文化と健康の関連性を分析することの重要を指摘する。

２．研究の目的

本研究では、グローバリゼーションの進む現代社会において、経済発展と食の欧米化・工業化の関連性、そして食の変化が人々の健康にもたらす影響を推計し、これらの過程における教育・情報の役割も検証する。既存のマクロデータを用いて、多数・多様の先進国・発展途上国を対象に、《**経済発展 → 食生活の変容→ 健康への影響**》といった一連の関連性を分析する。また、これら一連の過程において、教育・情報が食選択に果たす影響が、ミクロ経済理論で説明し得るものかを検証する。人々の厚生と健康には密接に関係しているため、食の変容・近代化がもたらし得る健康への影響と、食に関する教育・情報の役割を明らかにすることの意義は、厚生政策的観点からも大きいと言える。

３．研究の方法

本研究は、まず、先行研究の理論枠組みのレビューを行い、同時に各地の経済・食・健康・食関連教育及び情報に関する文献調査及び、分析に必要な既存データの調査を行った。既存のマクロデータを用い、食・経済・健康の関連性を分析した。また、所謂「健康に悪

い」とされるファストフードと健康の関連性、ファストフードと所得の関連性、食餌と関連性が深いと考えられる多様な疾患が経済へ及ぼす影響や、食の選択に関する既存研究レビューを行い、今後どのような研究や政策が必要であるのか考察した。さらに、複数の経済発展レベル及び食文化の異なる土地に赴き、現地の食料品事情に関する実地調査（一般的に利用される店舗や市場における販売食料品や食堂・レストラン・ファストフード店といった外食の現状）を実施した。こうした調査データを用い、食の近代化やグローバリゼーションの傾向、また、各食文化の違いを分析した。さらに、食の選択における情報や価格の影響を検証するため、特定の食料品（牛肉）に関して需要の弾力性分析を行い、また、牛肉に含まれるホルモン剤が疾病に与える影響を分析した。食の健康への影響に関しての複数国間の検証は現在進行中である。

４．研究成果

本研究は、経済発展に伴う食の欧米化・工業化、そして食の近代化が健康に与える影響を、異なる食文化を対象に検証した。異なる経済発展レベル・食文化の１２カ国の複数地域を対象に、日常食されている食材や食料品を調査した。国の経済レベルに関わらず、食の近代化やグローバリゼーションの傾向が見受けられたが、それぞれの固有の文化に根ざした食の多様性が特に途上国では見られた。同時に食に関する情報や価格が人々の選択に大きく影響することも確認された。食の健康への影響に関しての複数国間の検証は現在進行中である。この間、関連論文４件が掲載され、国際学会報告４件が実施された。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕（計　４　件）

1. 大村真樹子.「ファストフードと健康」『研究所年報』第 33 号.明治学院大学産業経済研究所 2016 年 12 月, pp. 33-39.

2. Omura, M. 2016. “An Analysis of Wine and Food Consumption Dynamics in Japan using a Vector Error Correction Model,” *Applied Economics.* Volume 48(44) (published online 13 Mar 2016) pp. 4257-4269

3. Omura, M., K. Ebihara and Y. Sakurai. 2016. “An Analysis of Wine Consumption Trends and Food-Related Expenditures in Japan, *International Journal of Business and Globalisation*, vol.17(1), pp. 1-32.

4. 大村真樹子.「食・健康・経済の関連性に関する一考察：マクロデータによる検証」『研究所年報』第 31 号.明治学院大学産業経済研究所 2014 年 12 月,pp.69-81.

〔学会発表〕（計　４　件）

1. Omura, M. 2018. “Potential Health Risk and Consumers’ Choice: Domestic Beef or Imported Beef?,” *International Conference on Food Studies*, University of British Columbia, Vancouver, Canada, 25-26 October 2018.

2. Omura, M. 2017. “A Comparative Demand System Analysis of Alcoholic Beverage Sector in

Japan," *OEnométrie (Enometrics) XXIV*, University of Bologna, Bologna, 7-10 June, 2017.

3. Omura, M. 2016. "A Field Experiment on Skill-Based School Health Education in Rural Bangladesh," *The 16th International Conference of Public Health Sciences*, Chulalongkorn University, Bangkok, 4 October 2016.

4. Omura, M. 2015. "Skill-Based School Health Education: A Field Experiment in Bangladeshi Primary Schools," *The 30th Japan Association for International Health Congress 2015*, Kanazawa University, Kanazawa, 11-12 November 2015.

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。